

平成20年 11月4日	農作物病虫害発生予報 11月	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
----------------	---------------------------------	----------------------------

～目次～	
I 予報の概要	1
II 予報	
【主要病虫害】	2
【その他の病虫害】	7
III 参考(予報の見方、気象予報、11月のテレホンサービスの内容)	8

I 予報の概要

農作物名	病虫害名	予想発生量	現況	
			平年比	前年比
ハクサイ	軟腐病	平年並	平年並	多
	べと病	少	少	前年並
キャベツ	黒腐病	平年並	平年並	多
アブラナ科野菜	コナガ	やや少	やや少	少
イチゴ	うどんこ病	やや多	やや多	多
	アブラムシ類	やや多	やや多	少
	ハダニ類	多	多	前年並
野菜全般	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	少
	オオタバコガ	多	多	前年並

作物	担当者
普通作	藤村(病害) 中川(虫害)
果樹	村本(病害) 殿河内(虫害)
野菜	岡田(病害) 溝部(虫害)

お問い合わせ先	
TEL	(083) 927-4006
FAX	(083) 927-4071

II 予報

【主要病害虫】

ハクサイ

1 軟腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率12.5%(平年22.2%)、発病株率0.3%(平年1.7%)、発病度0.1(平年0.6)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高く、降水量は平年並みである(+～±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア 排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

イ 発病株は取り除き、ほ場外で処分する。

<防除のポイント>

ア 発生を認めた場合、早急に防除を実施する。

イ 強風雨後の防除と害虫の防除を徹底する。

2 ベと病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
少	少	前年並	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率0%(平年58.9%)、発病株率0%(平年31.1%)、発病度0(平年9.3)で平年に比べ少なかった(-)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高く、降水量は平年並みである(-～±)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同一系統の薬剤の連用は避け、他系統の薬剤との体系防除を実施する。

キャベツ

1 黒腐病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発病初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率16.7%(平年16.3%)、発病株率0.7%(平年2.3%)、発病度0.2(平年0.5)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高く、降水量は平年並みである(±)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

排水溝を設置するなど、排水対策を徹底する。

<防除のポイント>

強風や大雨の後の防除と害虫の防除を徹底する。

アブラナ科野菜

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	少	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生は認められず平年に比べやや少なかった。キャベツでの発生ほ場率は16.7%(平年23.5%)、10株当たり虫数0.2頭は(平年0.9頭)で平年に比べやや少なかった(ー)。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 防除薬剤は、表「チョウ目害虫に対する薬剤の室内効果試験結果」参照。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

イチゴ

1 うどんこ病

平成20年(2008年)11月4日付け平20病虫防第3号技術資料第11号を参照する。

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	多	発病前または発病初期

(2) 予報の根拠

10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率20.0%(平成12.6%)、発病株率10.5%(平成2.5%)、発病葉率5.4%(平成1.4%)で平年に比べやや多かった(+)

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

被害果や被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

<防除のポイント>

ア 発生している場合は、り病葉の葉かぎを行い、伝染源を除去した後に4~5日間隔で2~3回防除を実施する。

イ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同一薬剤及び同一系統の薬剤の連用は避け、他系統の薬剤との体系防除を実施する。

2 アブラムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率30.0%(平成24.4%)、寄生株率6.8%(平成3.4%)で平年に比べやや多かった(+)

イ 山口市大内の黄色水盤トラップにおける10月の誘殺数は、平年に比べやや少なかった(-)

ウ 気象予報では、11月の気温は平年並み~高い(±~+)

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

多発生後の防除は困難なので、下葉の葉かきをこまめに行い、ほ場をよく観察して早期発見に努める。

<防除のポイント>

ア 薬剤散布時は、葉裏までムラなくかかるよう十分な量の薬液を散布する。

イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

3 ハダニ類

平成20年(2008年)11月4日付け平20病虫防第3号技術資料第11号を参照する。

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	前年並	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、発生ほ場率30.0% (平年14.9%)、寄生株率8.5% (平年3.5%)で平年に比べ多かった (+)。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高い (±～+)。

(3) 防除対策

<防除判断>

ハダニ類の肉眼での発見は困難な場合は、拡大鏡等を使用するか、葉裏に白紙を擦り付けて、ハダニ類が潰れた赤色やうす緑色の跡を確認する。

今回の調査で確認されたのはほとんどが体色が薄緑色のナミハダニで、体色が赤いカンザワハダニに比べ発生が確認しにくいいため、より注意が必要である。

<防除のポイント>

ア 下葉の葉かきを行って密度を下げ、その後に薬剤散布を行うと効果が高い。

イ 開花期以降に薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。ミツバチの巣箱は、薬剤の影響が無くなってから施設内に戻す。

ウ 発生が局所的である場合は部分散布を行う。また、薬剤は葉裏まで十分かかるように丁寧に散布する。

エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。

オ 天敵昆虫 (チリカブリダニ、ミヤコカブリダニ) は次のことに注意して使用する。

(ア) 発生初期に放飼する (ミヤコカブリダニはハダニの発生前の放飼可能)。

(イ) 天敵昆虫に影響の少ない農薬を使用する。

(ウ) ハダニが発生している場所の近くを中心に放飼する。

野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	少	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、ハクサイ、キャベツ、イチゴで「平年並」の発生であった (±)。

イ フェロモントラップ (6か所) における9月5半旬～10月4半旬の誘殺数は、「平年並」～「多」であった (±～+)。

ウ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高い (±～+)。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

ア ほ場をよく観察し、若齢幼虫の集中した葉を見つけ次第捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、葉の裏や鉄骨パイプ等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけ次第捕殺する。

<防除判断>

定期的にはほ場を観察し、若齢幼虫が見られる場合は直ちに防除する。

<防除のポイント>

ア 防除薬剤は、表「チョウ目害虫に対する薬剤の室内効果試験結果」参照。

イ 中～老齢幼虫には薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

2 オオタバコガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	前年並	若齢幼虫時

(2) 予報の根拠

ア 10月下旬の巡回調査では、ハクサイでの発生ほ場率は0%（平年2.7%）、寄生株率は0%（平年0.1%）で平年並みであった。キャベツでの発生ほ場率は66.7%（平年17.6%）、寄生株率4.6%（平年0.8%）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、11月の気温は平年並み～高い（±～+）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、幼虫を見つけ次第、捕殺する。

<防除のポイント>

ア 防除薬剤は、表「チョウ目害虫に対する薬剤の室内効果試験結果」参照。

イ 中～老齢幼虫はハクサイやキャベツの結球部に食入するので、若齢幼虫時の防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。

表 チョウ目害虫に対する薬剤の室内効果試験結果

系統名	一般名	商品名	薬剤の評価			
			ハスモンヨトウ	タマナギンウワバ	オオタバコガ	コナガ
生物由来	BT剤	ゼンターリ顆粒水和剤	△ キ、は、イ	—	△ キ、は、イ	◎ キ、ハ、は、イ
"	"	バンレックス水和剤	× キ、ハ、は、イ	— キ、ハ、は	—	◎ キ、ハ、は、イ
"	"	ガードジェット水和剤	×	○ キ	△ キ、ハ、は、イ	○ キ、ハ、は、イ
"	"	トアローフロアブルCT	×	—	○ キ、ハ、は、イ	△ キ、ハ、は、イ
"	"	デルフィン顆粒水和剤	△ キ、ハ、は、イ	—	◎ キ、ハ、は、イ	◎ キ、ハ、は、イ
"	"	フローバックDF	◎ キ、ハ、は、イ	—	× キ、ハ、は、イ	◎ キ、ハ、は、イ
"	"	エスマルクDF	—	○	△ キ、ハ、は、イ	◎ キ、ハ、は、イ
"	"	クオークフロアブル	— キ、ハ、は、イ	—	× キ、ハ、は、イ	◎ キ、ハ、は、イ
"	"	サブリーナフロアブル	— キ、は、イ	—	△ キ、は、イ	— キ、ハ、は、イ
"	"	ダイボール水和剤	—	— キ、ハ、は	—	◎ キ、ハ、は、イ
IGR	クロルフルアズロン乳剤	アタブロン乳剤	○ キ、ハ、イ	× キ、ハ	◎	△ キ、ハ
"	フルフェノクスロン乳剤	カスケード乳剤	○ キ、は、イ	— キ	△	△ キ、ハ
"	テフルペンズロン乳剤	ノーモルト乳剤	◎ キ、イ	— キ、ハ	—	○ キ、ハ
"	テブフェノジドフロアブル	ロムダンフロアブル	◎ イ	—	◎	—
"	ルフェヌロン乳剤	マッチ乳剤	◎ キ、イ	—	◎	△ キ、ハ
"	ホキシフェノド水和剤	ファルコンフロアブル	○ キ、イ、は	— キ	— キ、イ	○ キ
"	クロマフェノジド水和剤	マトリックフロアブル	— キ、イ	—	○	—
ネオニコチノイド	アセタミプリド水溶剤	モスピラン水溶剤	×	—	—	× キ、ハ
"	フィプロニルフロアブル	プリンスフロアブル	—	× キ、ハ	— キ、ハ	— キ、ハ
ネライトキシシ	カルタップ水溶剤	バダンSG水溶剤	×	—	—	△ キ、ハ
"	チオシクラム水和剤	エビセクト水和剤	×	×	—	◎ キ、ハ
"	ベンスルタップ水和剤	ルーバン水和剤	—	—	—	○ キ、ハ
カーハメト	チオジカルブフロアブル	ラービフロアブル	△ キ、ハ、イ	○ キ、ハ	△	—
"	メソミルDF	ランネット45DF	△ キ	× キ	×	× キ、ハ
"	アラニカルブ水和剤	オリオン水和剤40	△	— キ	—	—
"	NAC水和剤	マイクロデナボン水和剤85	× キ、ハ	—	—	—
有機リン	PAP乳剤	エルサン乳剤	△ キ、ハ	—	—	△ キ、ハ
"	クロルピリホスメチル乳剤	レルダン乳剤25	◎ キ、ハ	—	—	— キ、ハ
"	DPEP乳剤	ディプテックス乳剤	×	—	—	× キ、ハ
"	プロチオホス乳剤	トクチオン乳剤	△ キ	— キ	—	△ キ
"	DDVP乳剤50	DDVP乳剤50	△	×	—	× キ、ハ
"	アセフェート水和剤	オルトラン水和剤	— キ、ハ	○ キ	—	— キ、ハ
"	CYAP乳剤	サイアノックス乳剤	×	— キ、ハ	—	— キ、ハ
"	ピリミホスメチル乳剤	アクテリック乳剤	—	—	—	○ キ
ピレスロイド	エトフェンプロックス乳剤	トレボン乳剤	△	◎	×	× キ、ハ
"	ペルメトリン乳剤	アディオン乳剤	△	— キ	—	× キ、ハ
"	ピフェントリン水和剤	テルスター水和剤	×	◎	—	— キ、ハ
"	トラロメトリンフロアブル	スカウトフロアブル	×	—	—	— キ、ハ
"	フルバリネート水和剤	マブリック水和剤20	× キ	— キ、ハ	—	— キ、ハ
ピレスロイド・有機リン	フェハレート・マラン乳剤	ハクサップ乳剤	×	◎ キ	△	× キ、ハ
"	クロルフェナピルフロアブル	コテツフロアブル	△ キ、イ	— キ	△ キ	△ キ、ハ
"	エマメクチン乳剤	アフーム乳剤	◎ キ、は、イ	◎ キ	◎ イ	○ キ、ハ、は
"	ジアフェンチウロン水和剤	ガンバ水和剤	△ キ	—	—	× キ
"	スピノサド顆粒水和剤	スピノエース顆粒水和剤	△	— キ	—	◎ キ、ハ
"	ピリダリル水和剤	プレオフロアブル	○ キ、イ	— キ	×	× キ、ハ、イ
"	インドキサカルブフロアブル	トルネードフロアブル	— キ、イ	— キ	◎	— キ、ハ
"	ノバルロン水和剤	カウンター乳剤	◎ キ	—	—	× キ

注1 本県及び他府県の薬剤感受性試験をもとに2007年10月作成、登録内容は2008年10月現在
(ハスモンヨトウ: 大阪、千葉、栃木、香川、山口、タマナギンウワバ: 兵庫、オオタバコガ: 大阪、愛媛、山口、コナガ: 山口)

注2 評価については次のとおり(死虫率は補正死虫率)

◎効果が高い(死虫率85%以上) ○効果はある(死虫率65~85%) △効果にふれがある ×効果が低い(死虫率65%未満) —データ未確認

注3 キャベツ、ハクサイ、はなっこりー、イチゴについて、使用できるものを次のように示した。(キ: キャベツ、ハ: ハクサイ、は: はなっこりー、イ: イチゴ)

注4 作物により適用の内容がことなるので、登録内容を必ず確認する

注5 効果については室内実験で行われており、ほ場での効果を保証するものではない

注6 IGR剤については、気温が低くなり幼虫の成長が遅くなるため、効果発現に時間がかかるので注意する

【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年(%)	平年(%)	
キャベツ	ウワバ類	やや多	やや多	多	33	25	

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病害虫発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

（注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（10月31日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い(%) 少 ない	平年並(%)	高 い(%) 多 い
気 温	20	40	40
降 水 量	30	40	30
日照時間	40	40	20

週ごとの気温傾向

予 報	低 い(%)	平年並(%)	高 い(%)
1 週 目	10	40	50
2 週 目	20	40	40
3～4週目	30	40	30

3 11月のテレホンサービスの内容（予定）TEL(083)927-4649

時期	内 容
上旬	11月の発生予報、ハクサイベと病の防除、イチゴ病害虫の防除、トマト黄化葉巻病・黄化えそ病対策
中旬	稲わらの秋冬期すき込みによる耕種的防除、農薬の適正使用、野菜病害虫の発生状況と防除
下旬	カンキツ貯蔵病害の防除、農薬の適正使用